



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

---

CITATION:

質疑應答. 地球 1933, 20(6): 478-478

ISSUE DATE:

1933-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184228>

RIGHT:

## 質疑應答

### 問 海克線と濱黑鐵道との關係

答 海克線とは滿洲國が出來てから新に出來た鐵道で、海とは黑龍江省の海倫、克とは同じく克山鎮のことで其距離凡二〇〇軒の鐵道である。海倫までには從來呼海鐵道と稱した線があつた。これは哈爾濱の傳家フーチャインの對岸馬家マチャユアンタオ船口を起點とし呼蘭・綏化をへて海倫に至る二二一軒の標準軌道線で一九〇九年頃から計劃されたが、一九二五年に官商合辦呼海鐵路公司設立となり、張學良はロシヤの抗議を斥けて一九二六年起工、一九二八年全線竣工したものの、沿線は北滿の穀倉である。同時に齊克鐵道といふものも出來た。チ、ハルから克山をへて克山鎮に至る同じく二二一軒の鐵道で洮昂鐵道の昂昂々溪からチ、ハルに至る延長三一・五軒の齊昂線をも其管下に加へたので全長二六四軒であるが、齊昂線は一九二八年十二月に開通、東支鐵道を横ぎるのでロシヤの抗議があり、一時中止したけれども、一九二九年には全線開通し東支

線の培養線となり嫩江流域の豐沃な黑土帶を通り、この地方開發の幹線となつたことは呼海線と同様である。所が滿洲國成立以後右の海倫と克山鎮を漸に連接して海克線が出來、黑龍江省南部開發の第一歩がふみ出されたのである。

處が實はこの兩鐵道は、ロシヤが早くから其敷設を望んだ所謂濱黑線の一部である。濱黑とはハルピンと黑河との間の連絡で、哈爾濱より海倫・メルゲンを経て黑龍江岸産金地の中心黑河に至るものを本線とし、メルゲンよりチ、ハルに至るものを支線として全長一〇一五軒の豫定線であつた。ロシヤ銀行と支那政府との間に借款契約のあつたものであるが、露西亞帝國の沒落により其契約無効に歸し、支那は別に上述した呼海線をつくり、齊克線をつくり、滿洲國となつて後に愈海克線をつくつて之をつないでしまつたのである。しかしこの克山からさらにメルゲンをつらねて右の黑河に延長することは必要であつて、もしこの濱黑線が海克線の延長として出來上れば東支線以北の北滿交通の幹線が完成することとなり軍事に於ても非常に有効な位置を占めること、信じられる。(F)